

1 いしかわエンゼルプラン 2020 の策定過程

(1) いしかわエンゼルプラン 2015 推進協議会、石川県子ども政策審議会の開催

開催年月日	主な審議事項等
R1. 7.16 (火)	いしかわエンゼルプラン 2015 推進協議会 議題 (1) 「いしかわエンゼルプラン 2015」の改定について (2) 意見交換 「結婚、妊娠・出産」「子育て支援」「子どもの健全育成」 「保護を必要とする子どもへの支援」「仕事と生活の調和」
R1.12. 5 (木)	石川県子ども政策審議会・いしかわエンゼルプラン 2015 推進協議会合同会議 議題 「いしかわエンゼルプラン 2020 (仮称)」の骨子案について
R1.12.21 (土)	石川県子ども政策審議会 公聴会 (県民から意見聴取 (10 名)) テーマ 「結婚」「子育て」「働き方」
R2. 1.10 (金)	石川県子ども政策審議会 議題 「子ども施策に関する意見書 (案)」について
R2. 3.16 (月)	石川県子ども政策審議会、いしかわエンゼルプラン 2015 推進協 議会委員等から意見聴取 議題 「いしかわエンゼルプラン 2020」素案について

(2) その他

- 平成 31 年 1 月 「子育てに関する県民意識調査」の実施
- 令和 2 年 2 月 パブリックコメントの実施

2 いしかわエンゼルプラン 2015 推進協議会委員名簿 (R2.3)

協議会役職	構成団体・役職名等	氏 名
	石川県商工会議所連合会 会頭	安 宅 建 樹
	石川県社会福祉協議会保育部会保育士会 会長	石 塚 和 美
会 長	石川県立看護大学 参与	金 川 克 子
	石川県放課後児童クラブ団体連絡協議会 副会長	釜 土 達 雄
	石川県PTA連合会 会長	紙 谷 一 成
	NPO法人かもママ 理事長	河 原 廣 子
	石川県健康福祉部 部長	北 野 喜 樹
	公益社団法人石川県看護協会 会長	小 藤 幹 恵
	石川県児童養護協議会 会長	佐 道 寛
副 会 長	石川県小中学校長会 会長	柴 田 勝 俊
	石川県青少年育成推進指導員連絡会 会長	芝 田 信 栄
副 会 長	一般社団法人石川県経営者協会 会長	高 松 喜 与 志
	石川県商工会連合会 会長	田 上 好 道
	石川県青年団協議会 会長	竹 口 雄 治
	一般社団法人石川県私立幼稚園協会 理事長	田 中 辰 実
	金沢学院大学 教授	田 邊 俊 治
	石川県子ども会連合会 会長	縄 寛 敏
	日本労働組合総連合会石川県連合会 会長	西 田 満 明
	石川県婦人団体協議会 会長	能木場 由紀子
	石川県知的障害者福祉協会 会長	林 豊
	NPO法人全国認定こども園協会石川県支部 支部長	日 吉 輝 幸
	公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団 理事長	細 川 悦 子
副 会 長	石川県社会福祉協議会保育部会 部会長	前 田 武 司
	石川労働局 局長	松 竹 泰 男
	石川県民生委員児童委員協議会連合会 会長	三 国 外 喜 男
	子育て中の親	村 上 雅 子
	公益社団法人石川県医師会 会長	安 田 健 二
	金沢市福祉局 局長	山 田 啓 之
	公益財団法人石川県母子寡婦福祉連合会 会長	米 田 浅 子

(50音順、敬称略)

3 石川県子ども政策審議会委員名簿 (R2.3)

審議会役職	役 職 名	氏 名
	元石川県家庭教育相談員	浅野 悦子
	みらい子育てネット石川県地域活動連絡協議会 会長	奥野 美彌子
会 長	石川県立看護大学 参与	金川 克子
	石川県放課後児童クラブ団体連絡協議会 副会長	釜土 達雄
	金沢星稜大学 教授	川並 利治
	社会福祉法人松原愛育会石川県錦城学園 地域支援課主任	喜多 昌恵
	石川県高等学校長協会 理事	北村 幸恵
	子育て中の親	小鍛治 光子
	石川労働局 地方雇用保険監察官	坂本 栄子
児童福祉部会長	石川県児童養護協議会 会長	佐道 寛
	石川県青少年育成推進指導員連絡会 会長	芝田 信栄
	子ども夢フォーラム 代表	高木 真理子
	一般社団法人石川県私立幼稚園協会 理事長	田中 辰実
会長職務代理/ 幼児教育・保育部会長	金沢学院大学 教授	田邊 俊治
	石川県婦人団体協議会 副会長	中板 睦子
	石川県保護司会連合会 副会長	中川 悦子
青少年健全育成 部会長	石川県少年団体協議会 会長	縄 寛敏
	北陸学院大学短期大学部 教授	新澤 祥恵
	北國新聞社 論説委員	野口 強
	石川県小学校長会 副会長	八崎 和美
	石川県民生委員児童委員協議会連合会 副会長	福島 孝子
	石川県社会福祉協議会保育部会 部会長	前田 武司
	公益社団法人石川県医師会 会長	安田 健二

(50音順、敬称略)

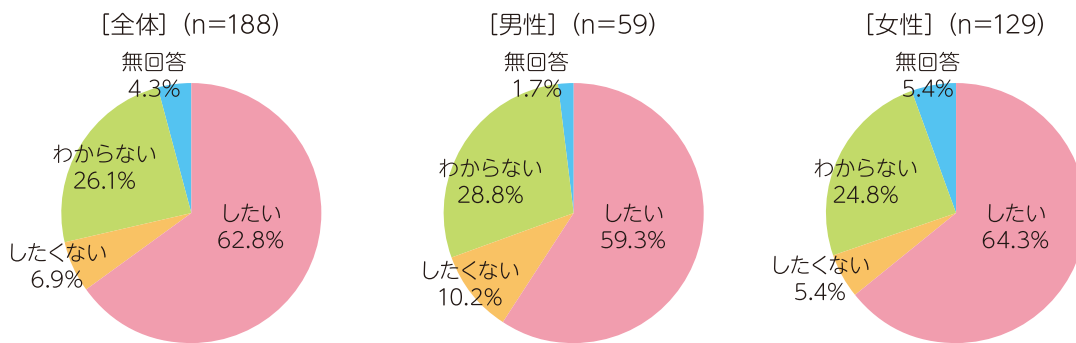
4 「子育てに関する県民意識調査」の概要

- **調査目的** : 県民の結婚、出産、子育てに関する意識を調査し、平成27年に策定した「いしかわエンゼルプラン2015」の改定のための基礎資料とする。
- **調査地域** : 石川県全域
- **調査対象** : 満20歳以上45歳以下の男女
- **抽出数** : 3,500人
- **回収数** : 910票（回収率26.0%）
- **対象者抽出** : 層化二段無作為抽出法
※層化基準：19市町をそれぞれ1つの層とする。
- **抽出名簿** : 住民基本台帳
- **調査方法** : 郵送自記入調査
- **調査期間** : 平成31年1月25日～2月6日

1. 結婚に関する意識（未婚の方〔離別・死別除く〕のみ聴取）

■ 将来的な結婚願望 - 将来結婚したいと思いますか -

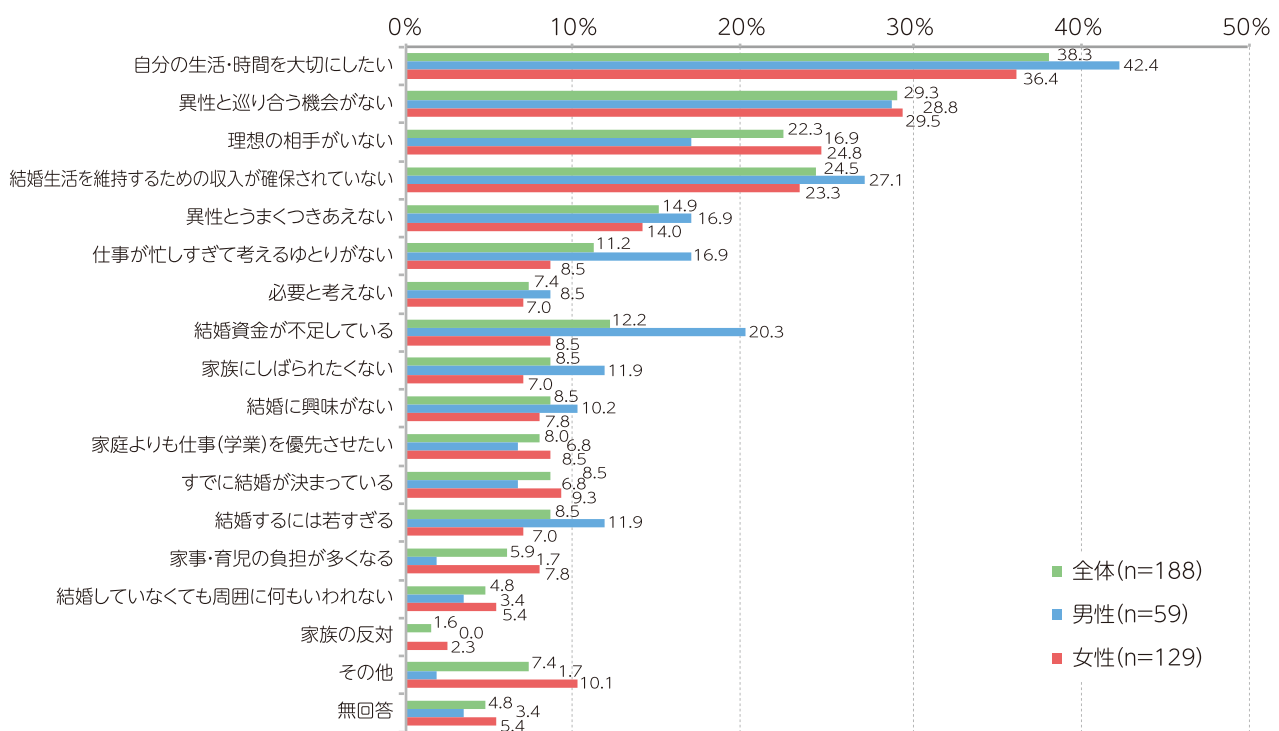
- 未婚者のうち、全体で 62.8%(男性 59.3%、女性 64.3%) が結婚したいと考えており、前回、前々回調査に続き減少傾向で推移している。〔前回調査（平成 25 年 12 月）：全体 71.6%(男性 71.6%、女性 71.6%)〕
- 性別では、女性の方が高い。
- 前回調査にくらべ「わからない」の回答が多くなっている。
全体 26.1%(男性 28.8%、女性 24.8%) 〔前回調査（平成 25 年 12 月）：全体 17.8%(男性 19.8%、女性 16.2%)〕



■ 結婚していない理由

- 結婚されていない理由として、あてはまるものを選んでください（3つ以内） -

- 一番多い理由は、「自分の生活・時間を大切にしたい」が全体で 38.3%(男性 42.4%、女性 36.4%) 〔前回調査：全体 26.2% (男性 23.4%、女性 28.4%)〕、次いで、「異性と巡り合う機会がない」が全体で 29.3%(男性 28.8%、女性 29.5%) 〔前回調査：全体 33.4% (男性 33.8%、女性 33.1%)〕となっている。前回と1位と2位の順位が入れ替わる結果となっている。
- 特に男性で「自分の生活・時間を大切にしたい」が 42.4% 〔前回調査：23.4%〕で最も多く、前回調査にくらべ19ポイント高くなっている。女性でも「自分の生活・時間を大切にしたい」が 36.4% 〔前回調査：28.4%〕で最も多い理由となっている。



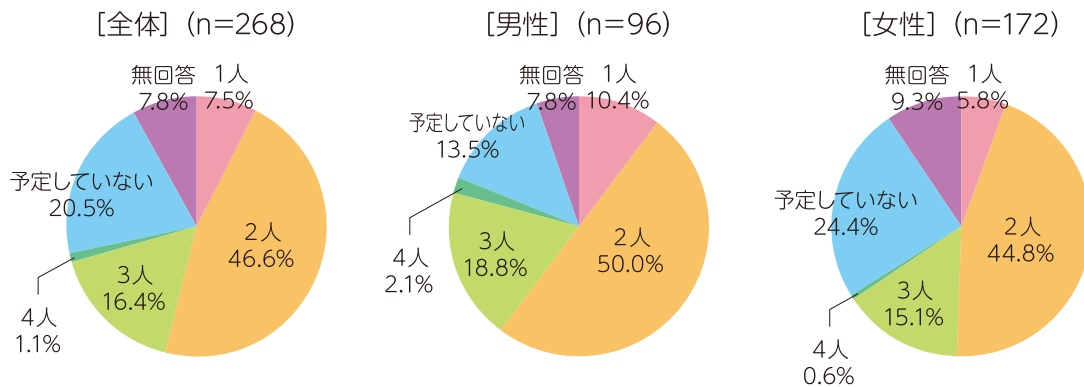
参考資料

2. 子どもを持つこと、育てることに対する意識（子どもがいない方のみ聴取）

■ 理想の子ども人数 - (お子さんがいない方) 子どもの数は何人が理想ですか -

○子どもがいない方や未婚者の理想の子ども人数は、「2人」が全体で 46.6% と最も多く、次いで子どもを「予定していない」が 20.5% [前回全体 14.7%] となっており、前回調査の「3人」と順位が入れ替わっている。

○性別では、子どもを「予定していない」人は、男性 13.5%、女性 24.4% となっており [前回：男性 15.8%、女性 13.9%] 女性が前回に比べ約 10 ポイント高くなっている。

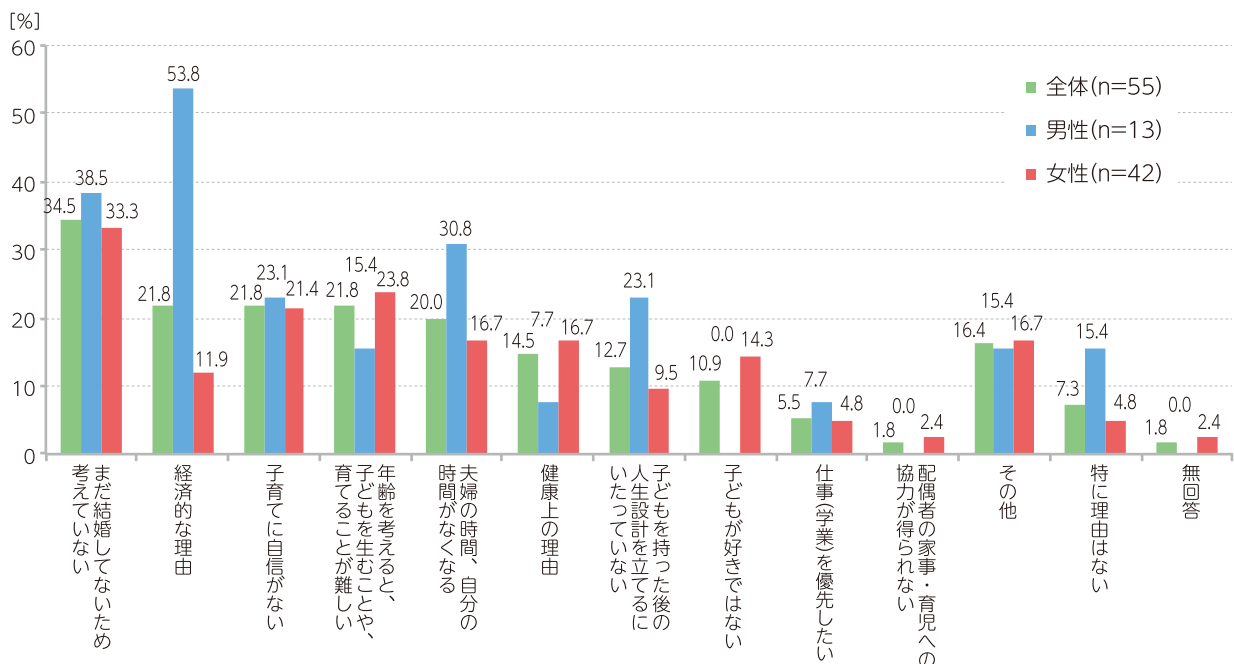


■ 子どもを予定しない理由

- (子どもを予定していない方に) その主な理由として、あてはまるものを選んでください (3つ以内) -

○子どもがいない方や未婚者が、子どもを「予定していない」理由は、全体で「まだ結婚していないため考えていない」が、全体 34.5% (男性 38.5%、女性 33.3%) と最も多くなっており、次いで「経済的な理由」が全体 21.8% (男性 53.8%、女性 11.9%) [前回調査：全体 26.1% (男性 31.7%、女性 21.3%)], 「子育てに自信がない」が全体 21.8% (男性 23.1%、女性 21.4%) [前回調査：全体 31.8% (男性 22.0%、女性 40.4%)], 「年齢を考えると、子どもを生むことや、育てることが難しい」全体 21.8% (男性 15.4%、女性 23.8%) が同率となっている。

○男性では「経済的な理由」が、女性では、「まだ結婚していないため考えていない」が最も多い理由となっている。

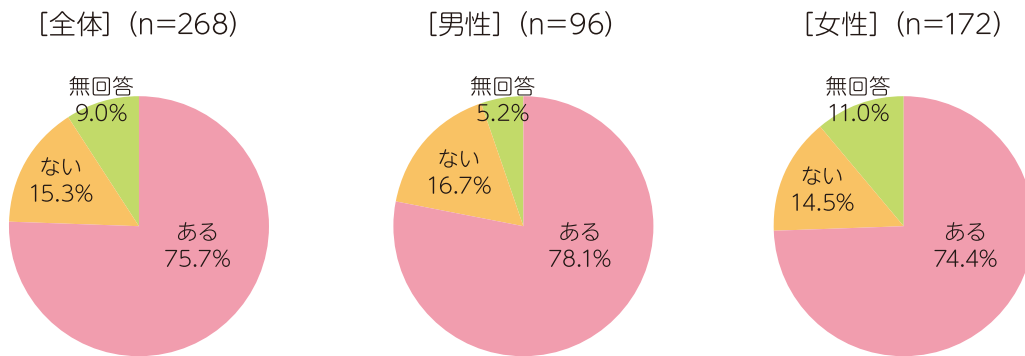


■ 子どもを育てることに対する不安 - 子どもを育てることに対して不安はありますか -

○子どもがいない方や未婚者のうち、子どもを育てることについて「不安がある」と回答した人は、全体で75.7%(男性78.1%、女性74.4%)と、前回調査より、約12ポイント多くなっている。

[前回調査：全体63.2%(男性56.5%、女性68.3%)、前々回調査：全体74.0%(男性70.0%、女性77.2%)]

○性別では、男性が女性より高くなっている。



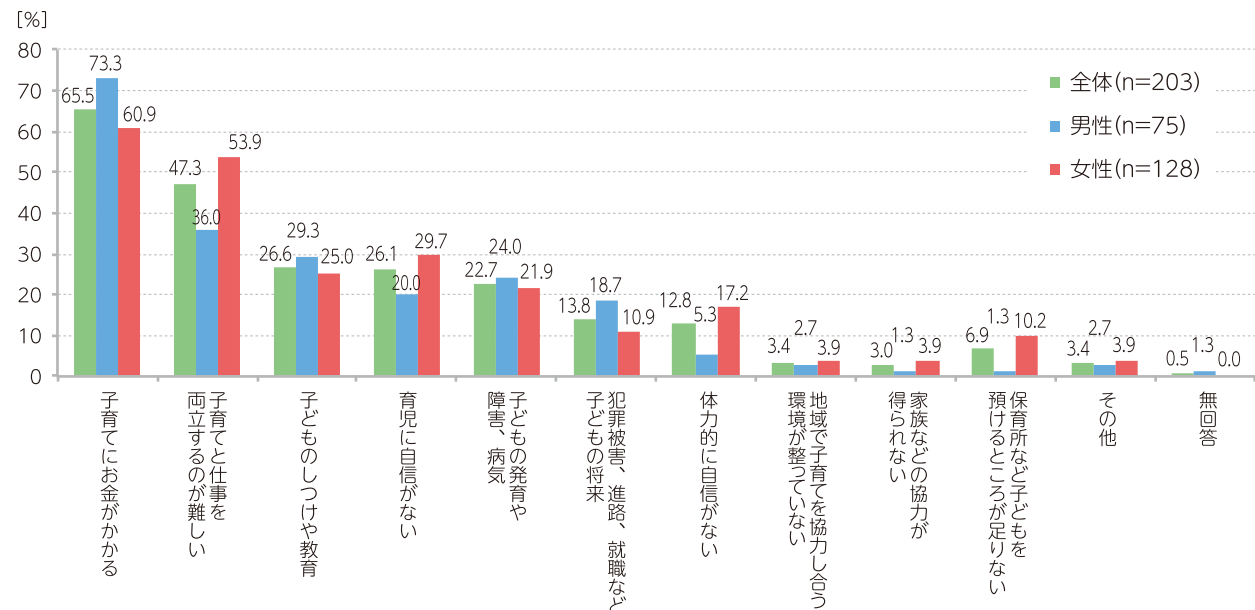
■ 子どもを育てることに対する不安要素

- (不安がある方に) どのような不安ですか (3つ以内) -

○子どもがいない方や未婚者が子どもを育てることについて「不安」を感じる理由で、一番多いものは、「子育てにお金がかかる」が全体で65.5%(男性73.3%、女性60.9%)となっており、前回調査の全体62.4%(男性69.4%、女性58.0%)と変わっていない。男女とも一番多く挙げている。

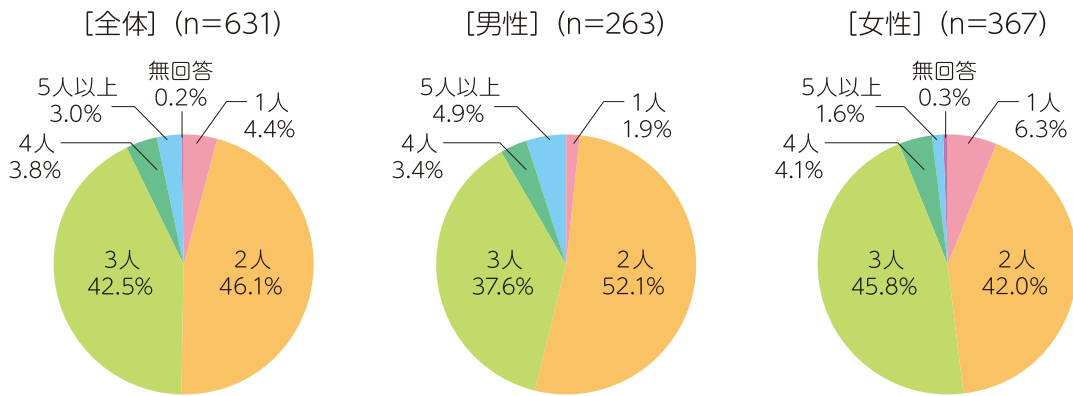
○二番目に多い理由は、「子育てと仕事を両立するのが難しい」が全体で47.3%(男性36.0%、女性53.9%) [前回：43.4%(男性29.9%、女性51.9%)] となっている。

○そのほかの理由として、「子どものしつけや教育」「育児に自信がない」が多く挙げられている。



■ 理想の子ども人数 - (お子さんがいる方に) 子供の数は何人が理想ですか -

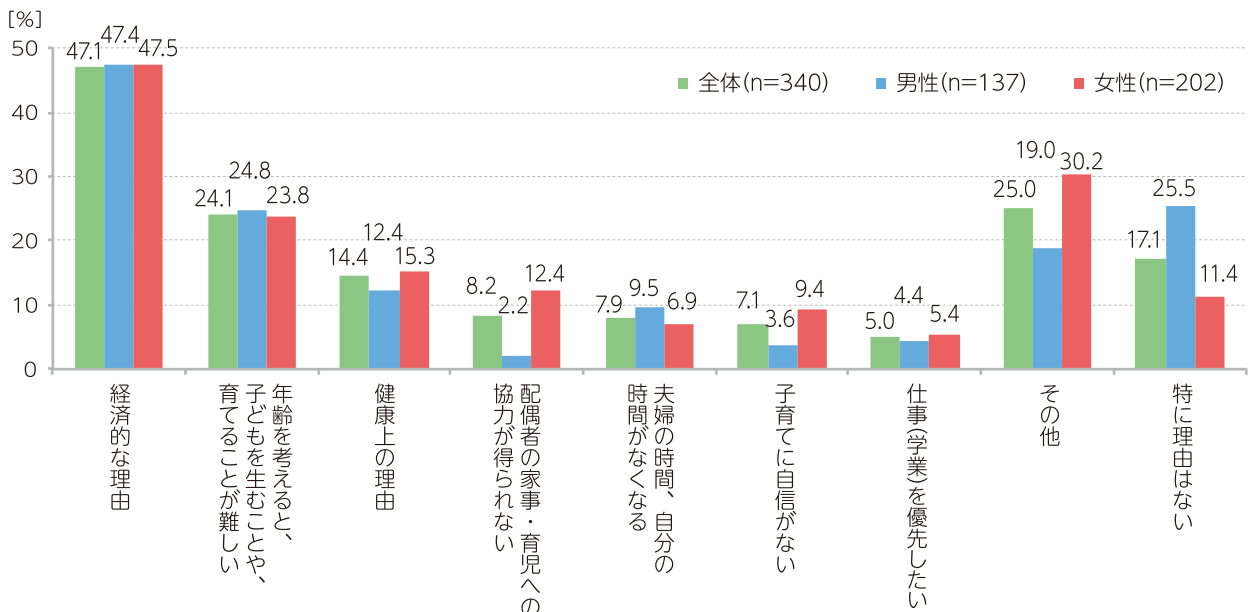
- お子さんがいる方の理想の子ども人数は、「2人」が全体で46.1%と最も多く、次いで「3人」が42.5%となっており、この2項目で全体の約9割を占める。
- 男女別で見ると、男性では「2人」と回答した人が52.1%、「3人」と回答した人が37.6%に対し、女性では「3人」と回答した人が45.8%となっており「2人」と回答した人42.0%を上回る。



■ 理想より子どもの数が少ない理由

-(お子さんがいる方に) 理想より子どもの数が少ない理由として、
あてはまるものを選んでください (3つ以内) -

- お子さんのいる方で、理想より子どもの数が少ない理由は、「経済的な理由」が最も多く全体で47.1%(男性47.4%、女性47.5%)となっている。男女共に最も多い理由となっている。
- 次いで多い理由は、「年齢を考えると、子どもを生むことや、育てることが難しい」で全体で24.1%(男性24.8%、女性23.8%)となっている。

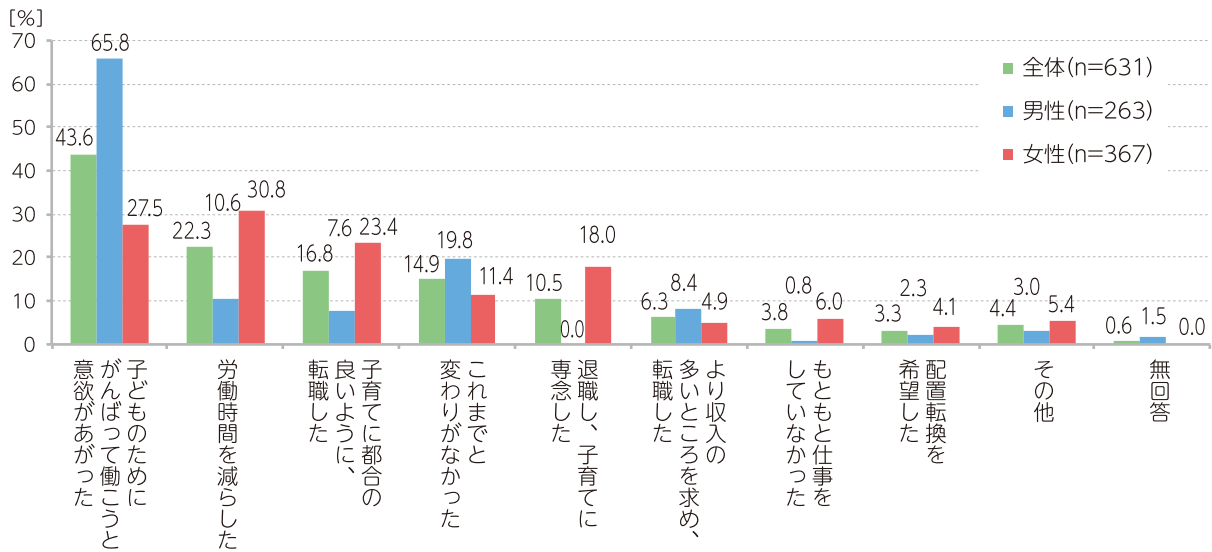


3. 子育ての環境に関する状況・意識（子どもがいる方のみ聴取）

■ 子どもが生まれた後の働き方の変化

－お子さんが生まれたことによって、あなたの働き方に変化がありましたか－（2つ以内）

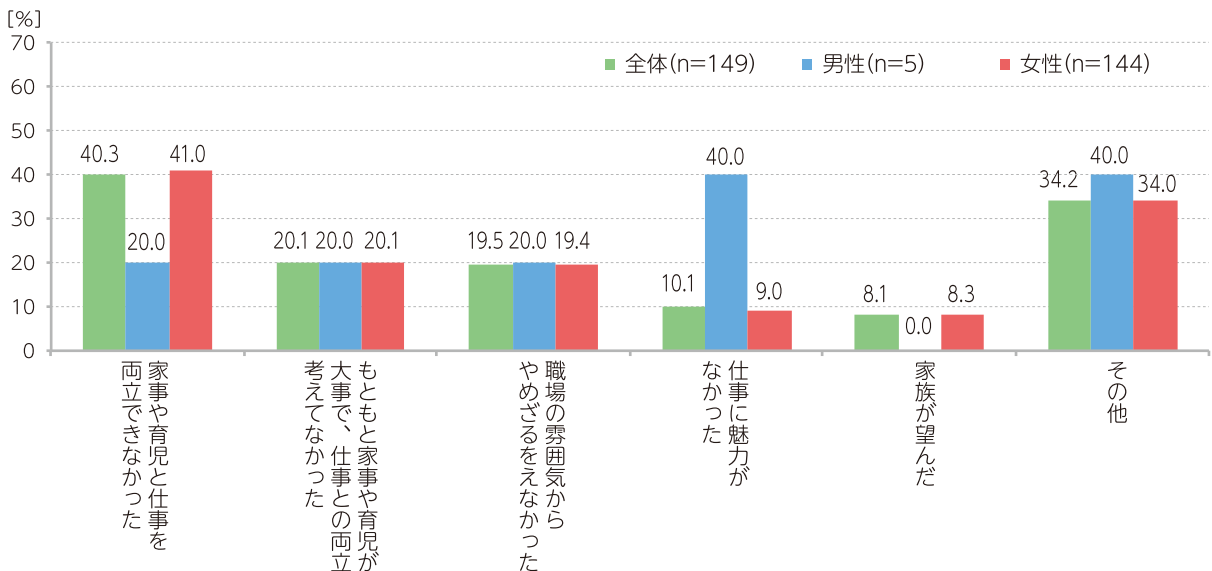
- 「子どものためにがんばって働こうと意欲があがった」が全体で43.6%（男性65.8%、女性27.5%）と一番多く、特に男性の数値が高い。前回調査と傾向は同じである。
- このほか、男性では「これまでと変わりがなかった」が19.8%、女性では「労働時間を減らした」が30.8%と多くなっている。



■ 仕事を辞めた理由

－（出産、育児を機に仕事を辞めた方に）仕事を辞めた主な理由としてあてはまるものを選んでください（3つ以内）－

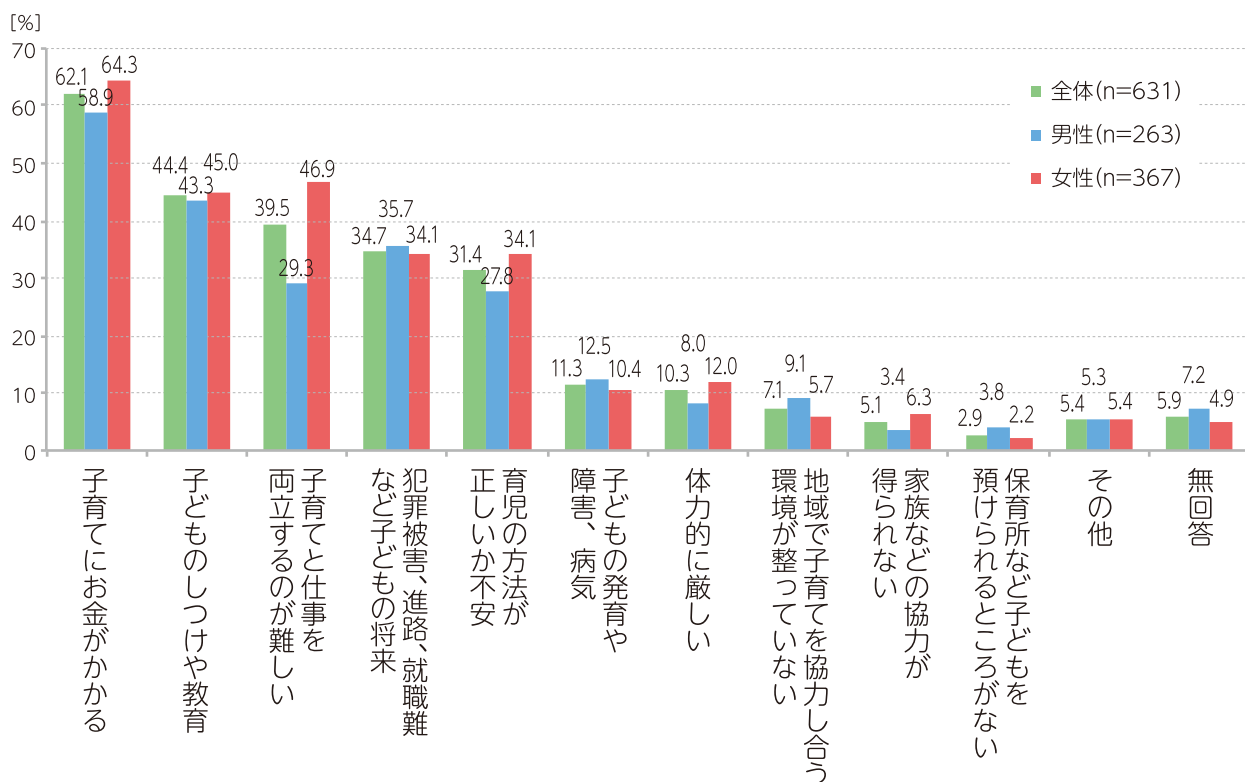
- 仕事を辞めた理由としては、「家事や育児と仕事を両立できなかった」が40.3%〔前回調査：39.4%〕と最も多く、次いで「もともと家事や育児が大事で、仕事との両立は考えていなかった」が20.1%〔前回調査：28.9%〕で続き、前回調査と同様の結果となっている。



■ 子育てに関する悩み

－(子どもがいる方) 子育てに関して悩んでいることはありますか
(あてはまるものをすべて選択)－

- 子育てに関する悩みとして、一番多いのは「子育てにお金がかかる」が全体で 62.1%(男性 58.9%、女性 64.3%) で、男女とも最も多く挙がっており、前回調査と傾向は変わらない。
- 二番目に多い理由は、「子どものしつけや教育」が全体で 44.4%(男性 43.3%、女性 45.0%) となっており、そのほか、男性では「犯罪被害、進路、就職難など子どもの将来」、女性では「子育てと仕事を両立するのが難しい」が多くなっている。

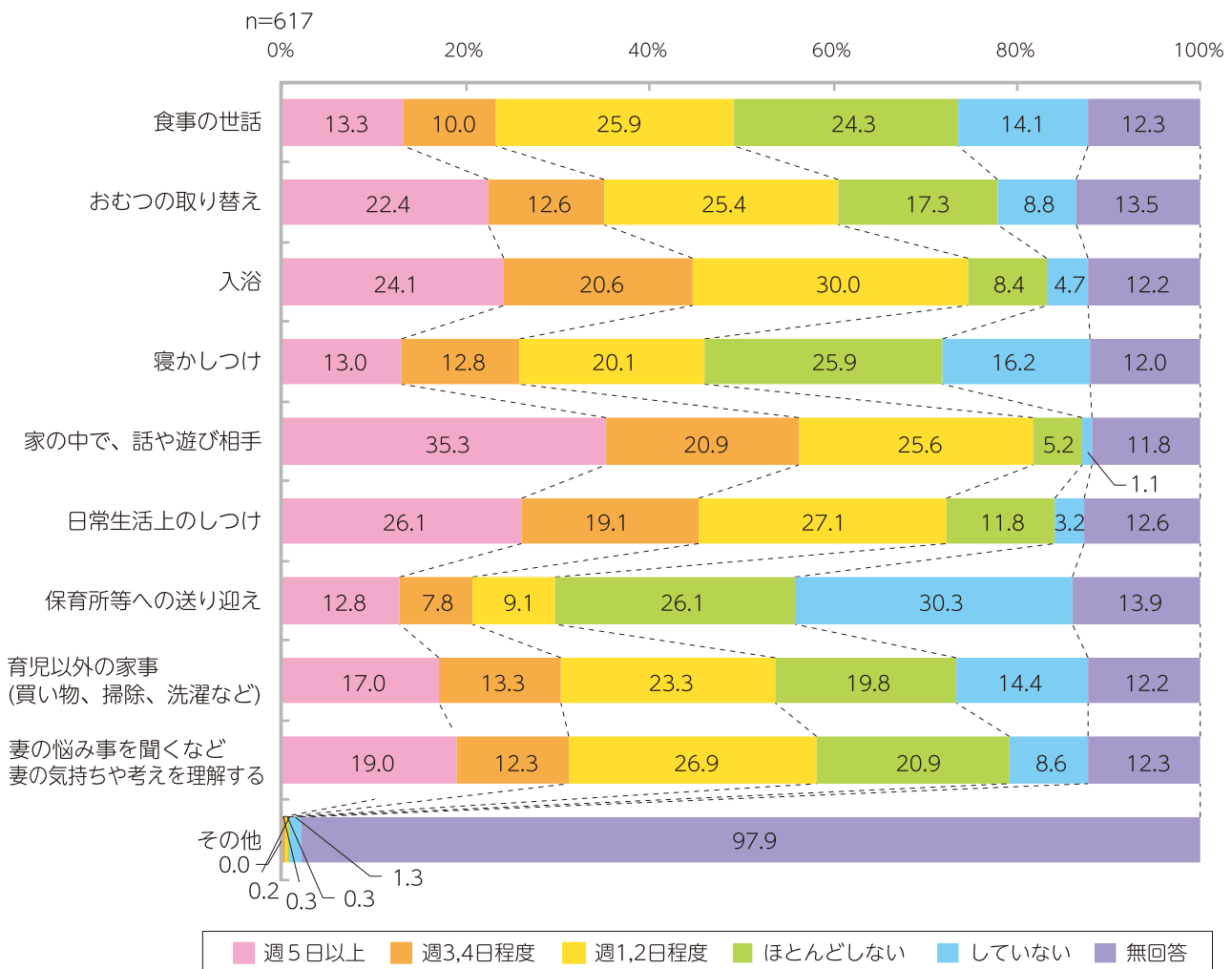


■ 父親の育児・家事の頻度

－(配偶者がいる方に) 小学校入学前の育児や家事について父親が行っている(行っていた)頻度はどのくらいですか－ ※父親は自身の、母親は父親の状況を回答

「父親が行っている育児・家事の頻度」は、

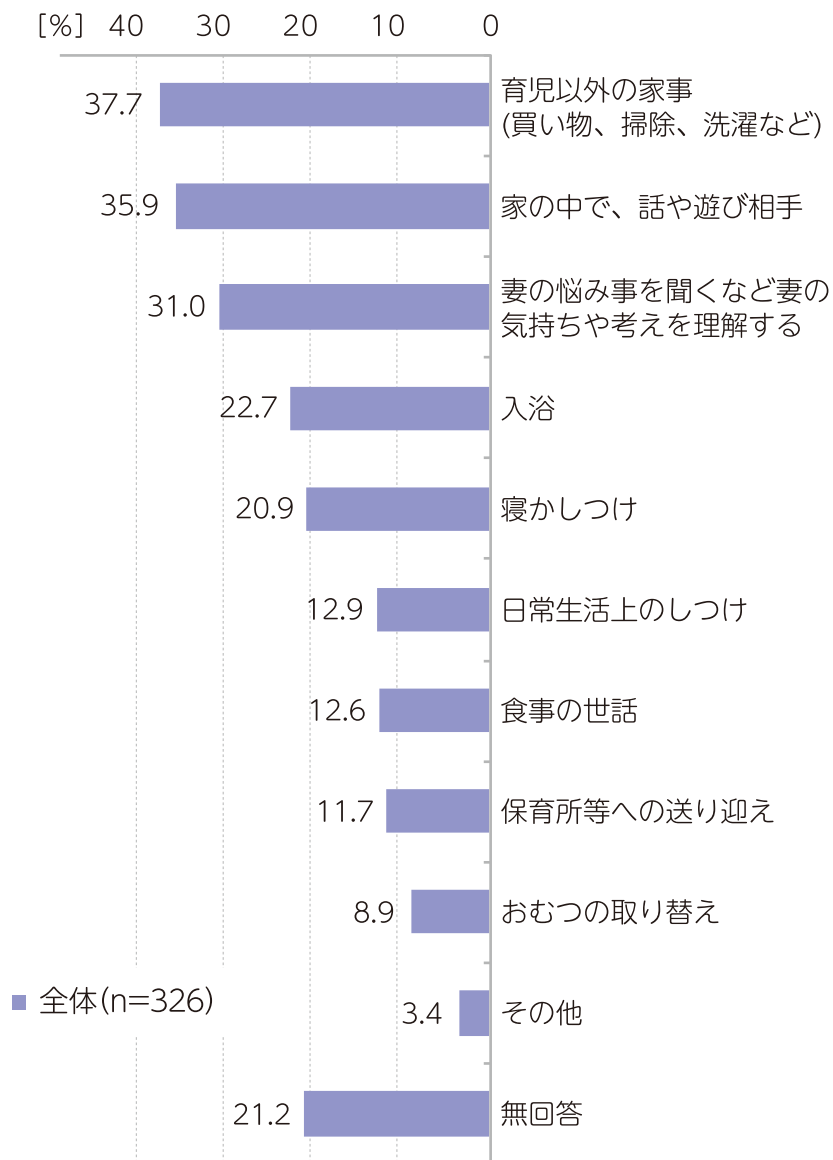
- 「週5日以上の頻度」では「家の中で、話や遊び相手」が35.3%と最も多く「保育所等への送り迎え」が12.8%と最も少ない。
- 「週3、4程度の頻度」でも同様に「家の中で、話や遊び相手」が20.9%と最も多く「保育所等への送り迎え」が7.8%と最も少ない。
- 「週1、2日程度の頻度」では「入浴」が30.0%と最も多く「保育所等への送り迎え」が9.1%と最も少ない。
- 「ほとんどしない」では「保育所等への送り迎え」が26.1%と最も多く「家の中で、話や遊び相手」が1.1%と最も少ない。
- 同様に「していない」でも、「保育所等への送り迎え」が30.3%と最も多く「家の中で、話や遊び相手」が0.1%と最も少なくなっている。



■ 父親に行って欲しい育児・家事の内容

－(母親の方に) 父親に行ってほしい(ほしかった) ことは何ですか(3つ以内)－

○全体では、「育児以外の家事(買い物、掃除、洗濯)」が37.7%と最も多くなっており、次いで「家の中で、話や遊び相手」が35.9%となっています。



■ 祖父・祖母に期待する支援

－(お子さんの祖父・祖母いる方に) 祖父・祖母に期待する支援は何ですか(3つ以内)－

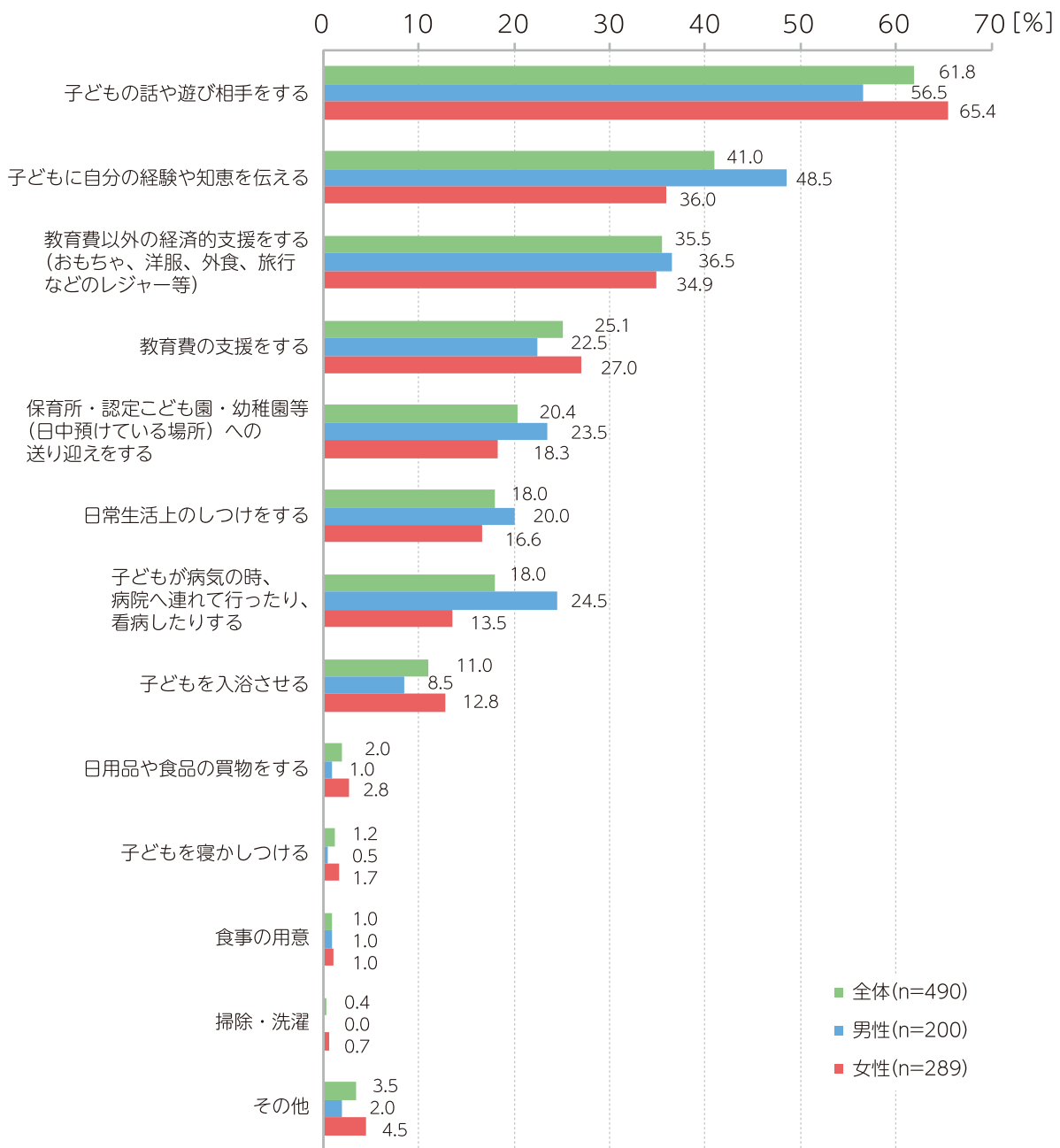
祖父に期待する支援

○全体では「子どもの話や遊び相手をする」が最も多く61.8%となっている。

女性の方が多く回答している

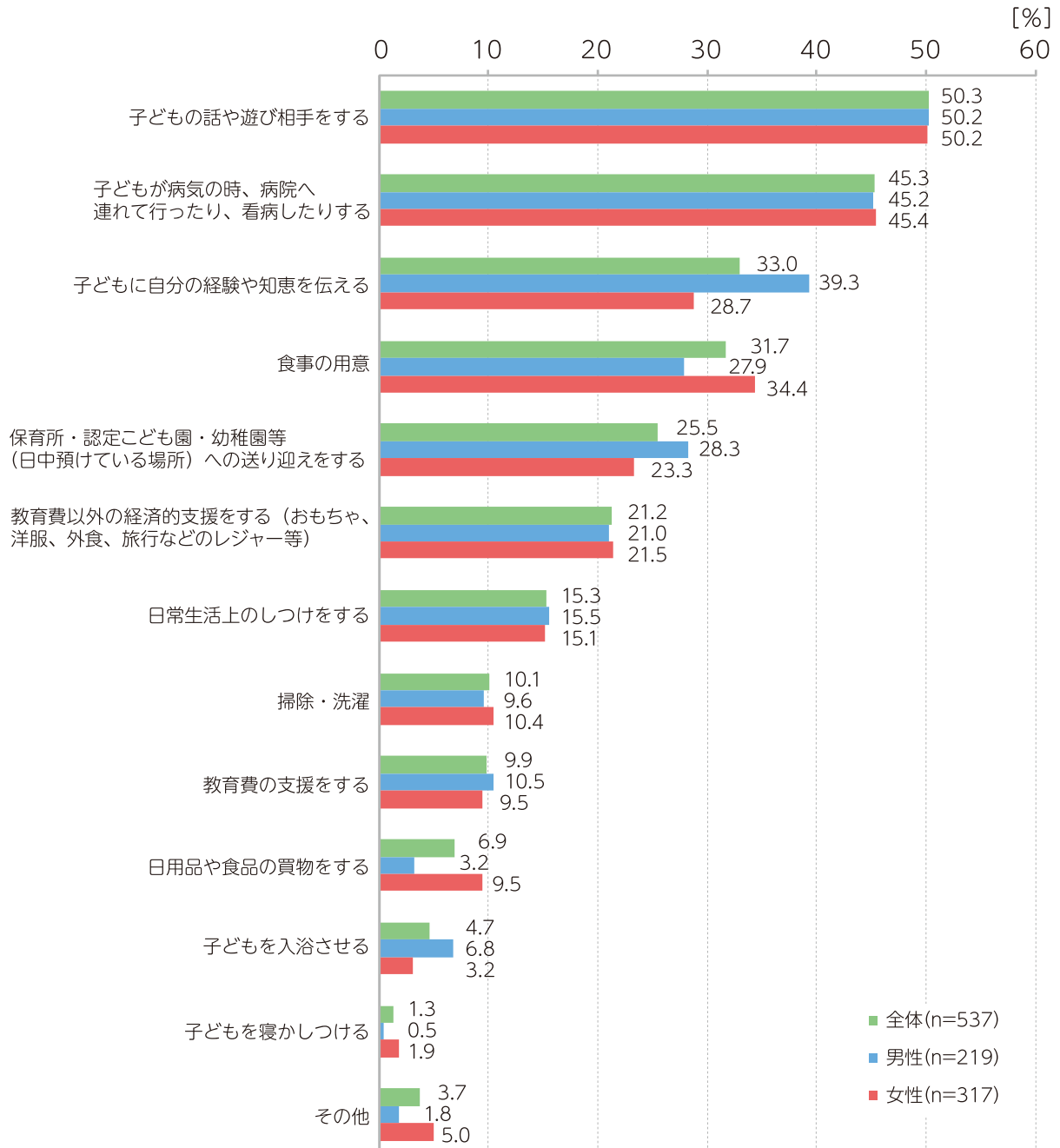
○次いで「子どもに自分の経験や知恵を伝える」が41.0%となっている。

男性の方が多く回答している



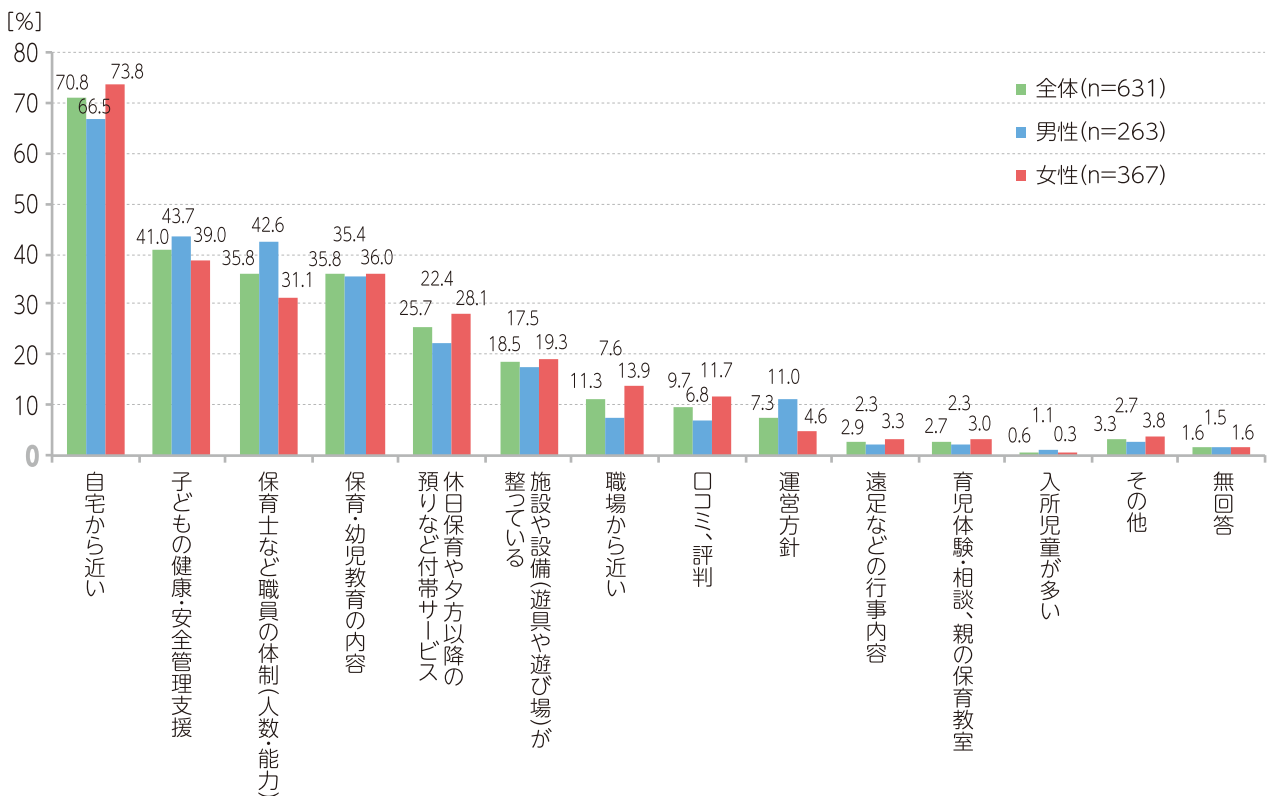
祖母に期待する支援

- 「祖母に期待する支援」としては「子どもの話や遊び相手をする」が最も多く全体の50.3%。
- 次いで「子どもが病気の時、病院へ連れて行ったり、看病したりする」が45.3%となっている。
- 男女ともに、ほぼ同数となっている。



■ 保育所・幼稚園で重視すること

- 保育所・幼稚園を利用するにあたって重視することとして、一番多いのは「自宅から近いこと」が全体で70.8%(男性66.5%、女性73.8%)と、男女とも特に多く挙がっている。
- 二番目は、「子どもの健康・安全管理支援」が全体で41.0%(男性43.7%、女性39.0%)となっている。男女とも上位2項目の順位は同じである。
- その他「保育士など職員の体制」が全体で35.8%(男性42.6%、女性31.1%)、「保育・幼児教育の内容」が全体で35.8%(男性35.4%、女性36.0%)と同率で続く。

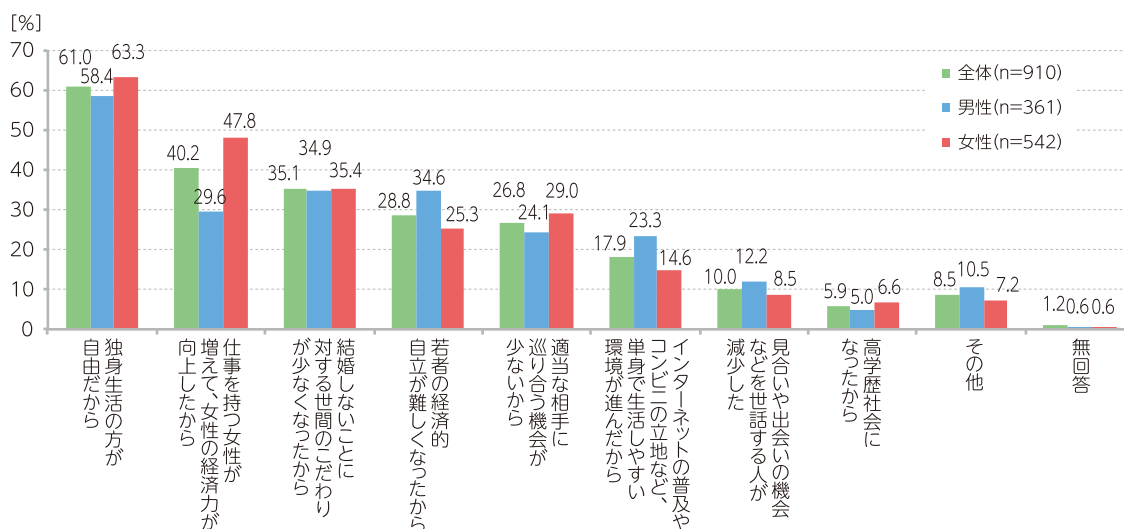


4. 未婚化・晩婚化に対する意識

■ 未婚化・晩婚化が進む理由

－未婚化・晩婚化が進む理由として、あなたの考えに近いものを選んでください（3つ以内）－

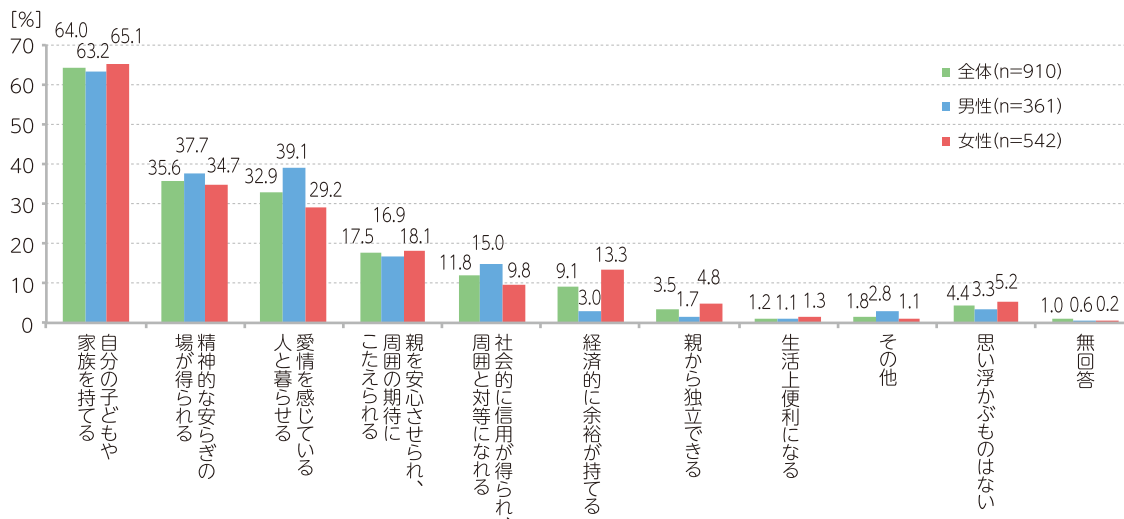
- 未婚化・晩婚化が進む理由で、一番多いものは、「独身生活の方が自由だから」が全体で61.0%(男性58.4%、女性63.3%)となっている。
 - 二番目に多い理由は、「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上したから」が全体で40.2%(男性29.6%、女性47.8%)となっている。
- そのほか、男性では「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなったから」や「若者の経済的自立が難しくなったから」、女性では「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなったから」が多くなっている。



■ 結婚の良い点

－結婚する事の「良い点」は何だと思いますか（2つ以内）－

- 結婚する事の良い点で、一番多いものは、「自分の子どもや家族を持てる」が全体で64.0%(男性63.2%、女性65.1%)となっており、二番目以降の理由とは大きく差が開いている。
- 二番目に多い理由は、「精神的な安らぎの場が得られる」が全体で35.6%(男性37.7%、女性34.7%)となっている。

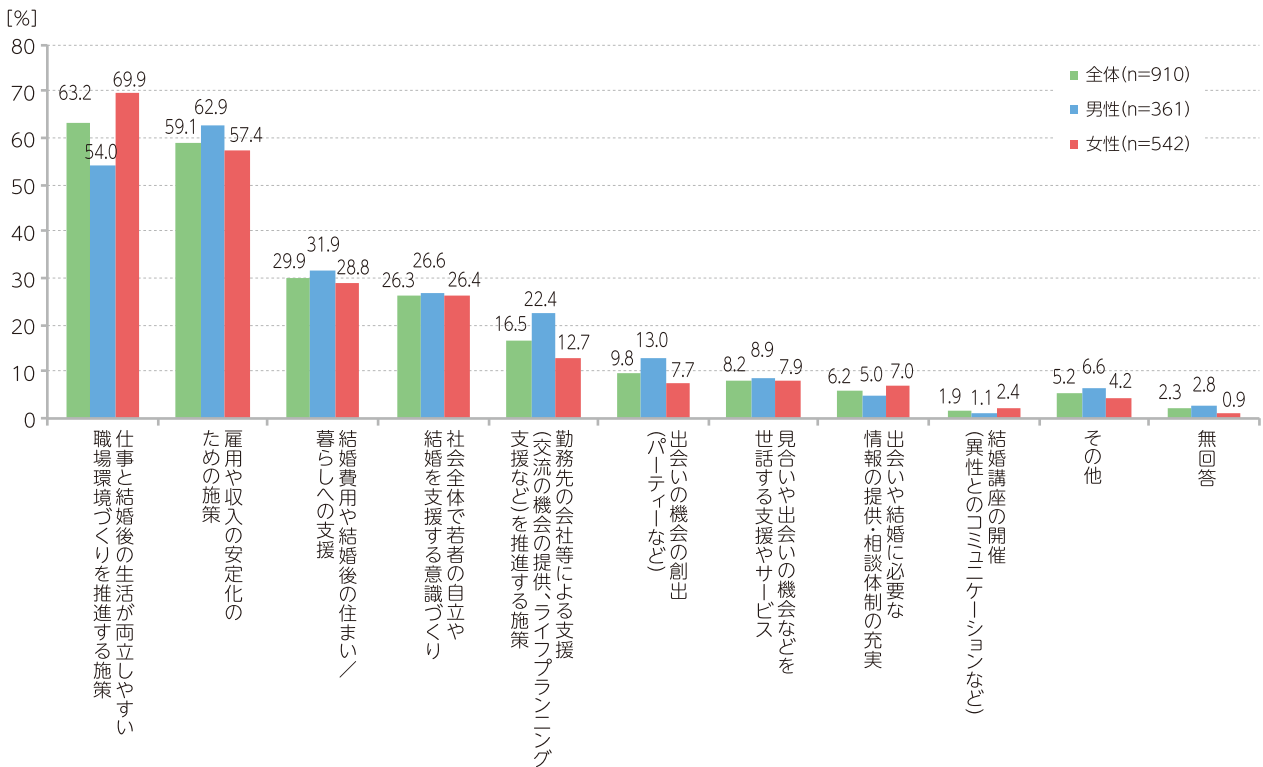


■ 結婚しやすい環境の整備に有効な施策

ーより結婚しやすい環境を整備するために有効な施策は何だと思えますか（3つ以内）ー

○より結婚しやすい環境を整備するために有効な施策として一番多いものは、全体では「仕事と結婚後の生活が両立しやすい職場環境づくりを推進する施策」が全体で 63.2%(男性 54.0%、女性 69.9%) となっている。

○続いて、「雇用や収入の安定化のための施策」が全体で 59.1%(男性 62.9%、女性 57.4%)、が多くなっている。男性では、「雇用や収入の安定化のための施策」が最も多くなっている。



5. 少子化対策に関する支援・環境整備

■ 子どもの成長段階ごとに必要な支援

－お子さんの成長段階のそれぞれにおいて、どのような支援や施策が必要だと思いますか（3つ以内）－

- 「妊娠・出産時期」では、「母子保健サービスの充実」50.4%、「配偶者の支援」47.6%が多く求められている。（前回調査では「配偶者・祖父母など家族の支援」（全体 59.4%）や「職場の支援」（全体 49.8%）の順）
- 「新生児・乳児期」では、「配偶者の支援」50.4%、「母子保健サービスの充実」43.8%が多く求められている。（前回調査では「配偶者・祖父母など家族の支援」（全体 70.5%）や「医療支援」（全体 44.5%）の順）
- 「幼児期」では、「子どもが日常的に利用するサービスの充実」60.8%、「配偶者の支援」42.1%が多く求められている。（前回調査では「地域の子育て支援サービス」（全体 61.8%）や「配偶者・祖父母など家族の支援」（全体 56.9%）の順）
- 「小学校（低・中学年）期」では「子どもが日常的に利用するサービスの充実」43.3%、「配偶者の支援」41.0%が多く求められている。（前回調査では「地域の子育て支援サービス」（全体 65.0%）や「配偶者・祖父母など家族の支援」（全体 45.3%）の順）
- 「小学校（高学年）期」では、「配偶者の支援」41.9%、「経済的な支援」39.0%が多く求められている。（前回調査では「経済的な支援」（全体 44.1%）や「地域の子育てサービス」（全体 42.4%）の順）
- 「中・高校生期」では、「経済的な支援」70.3%、「配偶者の支援」41.1%が多く求められている。（前回調査では「経済的な支援」（全体 72.2%）や「配偶者・祖父母など家族の支援」（全体 32.2%）の順）
- 「高校卒業以降」では、「経済的な支援」67.1%、「配偶者の支援」33.7%が多く求められている。（前回調査では「経済的な支援」（全体 65.4%）や「就労支援」（全体 43.0%）の順）

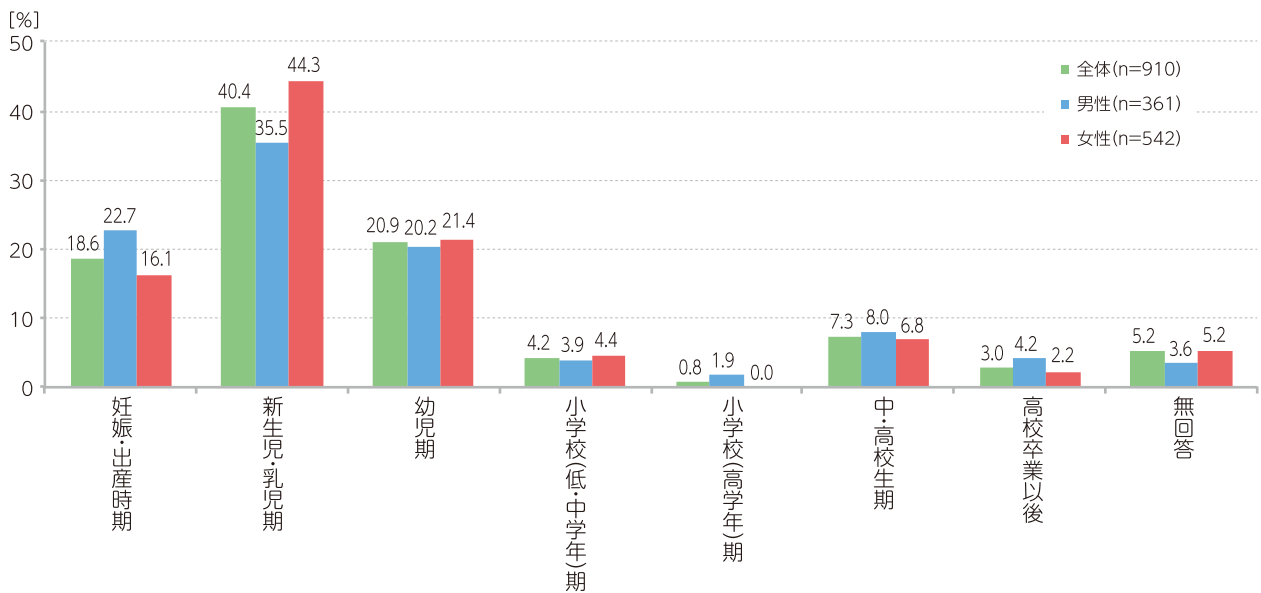
n=910		必要な支援											
		専門機関による相談支援	母子保健サービスの充実	子どもが日常的に利用するサービスの充実	多様な子育て支援サービスの充実	配偶者の支援	祖父母など家族の支援	近隣地域・住民による支援	職場の支援	経済的な支援	就労支援	医療支援	その他
子どもの成長段階	妊娠・出産時期	③44.1	①50.4	4.0	4.8	②47.6	25.4	1.6	32.7	21.6	1.6	18.7	0.2
	新生児・乳児期	27.4	②43.8	18.0	21.9	①50.4	③34.9	3.7	20.4	22.5	1.5	18.5	0.1
	幼児期	10.3	7.4	①60.8	③34.6	②42.1	29.5	5.1	30.4	21.2	3.3	19.2	0.2
	小学校(低・中学年)期	4.1	1.2	①43.3	18.1	②41.0	30.0	21.0	28.7	③30.8	5.8	21.5	1.0
	小学校(高学年)期	3.6	0.8	22.4	10.1	①41.9	③26.4	23.4	24.6	②39.0	4.9	24.2	1.4
	中・高校生期	2.5	0.4	1.1	1.6	②41.1	16.6	10.3	16.3	①70.3	8.7	③27.0	2.0
	高校卒業以後	1.9	0.4	0.3	1.0	②33.7	11.9	5.2	11.8	①67.1	③27.5	22.2	1.9

■ 子育て支援が必要な時期

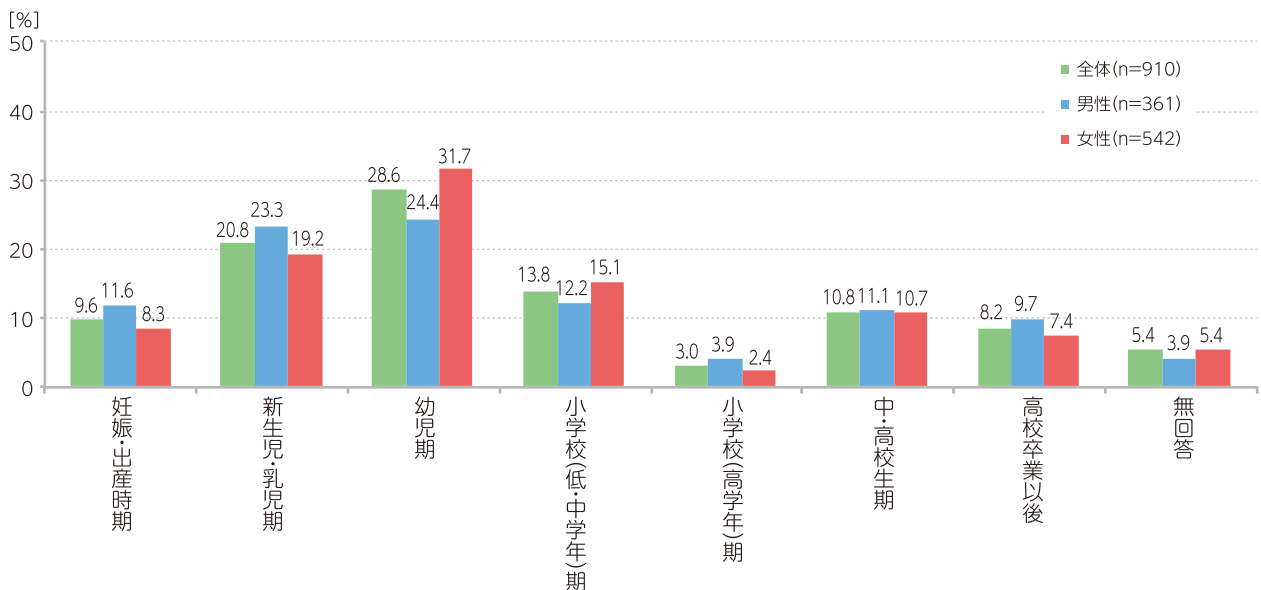
－それぞれの成長段階で子育て支援が必要だと思う時期は、いつですか－

- 最も必要な時期は「新生児・乳児期」が全体で40.4%(男性35.5%、女性44.3%) [前回調査：全体42.2%(男性40.6%、女性43.2%)] となっており、前回調査と傾向は変わらない。
- 次に必要な時期は「幼児期」が全体で28.6%(男性24.4%、女性31.7%) [前回調査：全体30.1%(男性29.5%、女性30.8%)] となっており、前回調査と傾向は変わらない。

[最も必要な時期]



[次に必要な時期]



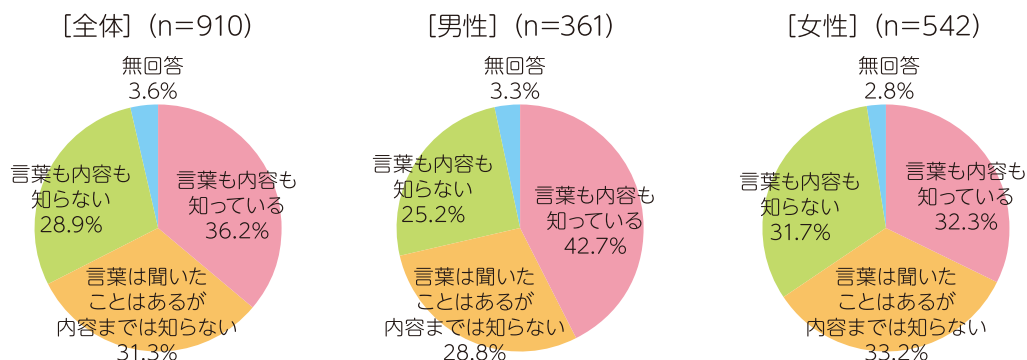
6. ワークライフバランスに関する意識

■「ワークライフバランス」の認知度

－「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」という言葉、どの程度知っていますか－

○ワークライフバランスの認知度（「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の合算）は、全体で67.5%（男性71.5%、女性65.5%）となっており、前回調査から男性で約20ポイント、女性で約15ポイント認知度が上昇している。〔前回調査：全体51.4%（男性54.2%、女性50.2%）〕

○女性の方が男性より僅かに認知度が低くなっている。



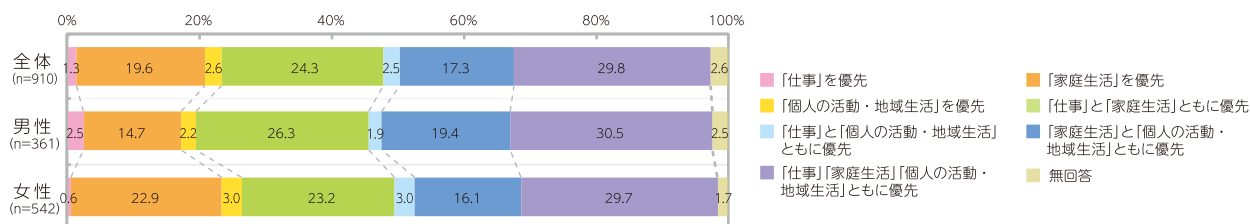
■「仕事」「家庭生活」「個人の活動・地域生活」の優先度

－生活の中で「仕事」「家庭生活」「個人の活動・地域生活」の優先度について、
【希望】と【現実】それぞれ最も近いものを選んでください－

【希望】○「仕事と家庭生活と地域生活ともに優先」が全体29.8%（男性30.5%、女性29.7%）と、全体でも性別でも最も多い。前回調査でも「仕事と家庭生活と地域生活ともに優先」が最も多く、2位以下の順位も前回と同様の傾向となっている。

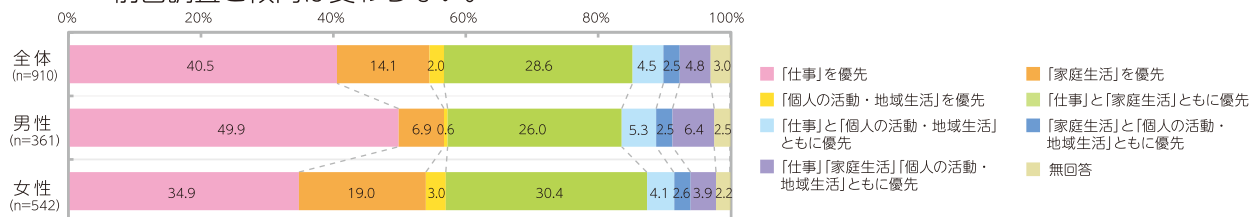
〔前回調査では、「仕事と家庭生活と地域生活ともに優先」（31.3%）、「仕事と家庭生活を優先」（22.0%）、「家庭生活を優先」（19.9%）の順〕

○性別では、「仕事と家庭生活と地域生活ともに優先」は男性が女性を上回り、「家庭生活を優先」は女性が男性を上回っており、前回調査と傾向は変わらない。



【現実】○「仕事を優先」が全体で40.5%（男性49.9%、女性34.9%）と、男女とも最も多く、前回調査と変わらない。

○性別では、「仕事を優先」は男性が女性を、「家庭生活を優先」は女性が男性を上回っており、前回調査と傾向は変わらない。

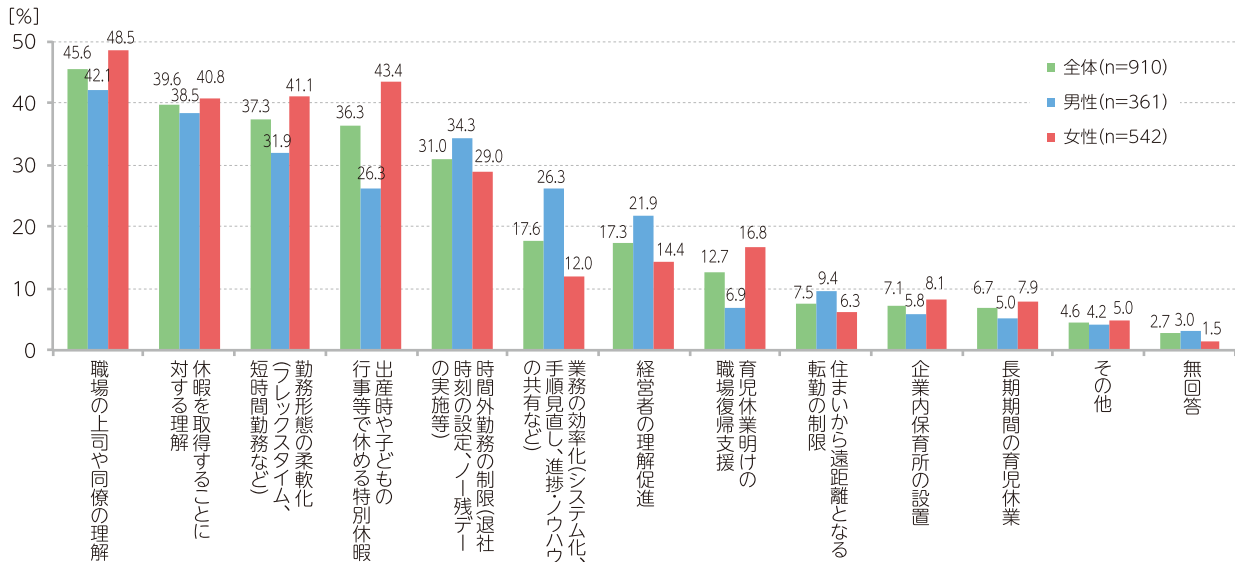


■ ワークライフバランス実現に効果的な企業の支援

－ワークライフバランスを実現するために、職場において何が重要だと思いますか（3つ以内）－

○企業の支援としては、「職場の上司や同僚の理解」が全体で 45.6%（男性 42.1%、女性 48.5%）と最も多く、次いで「休暇を取得することに対する理解」が全体で 39.6%（男性 38.5%、女性 40.8%）となっている。前回調査では、「出産時や子どもの行事等で休める特別休暇」が全体で 48.4% となっていた。

○性別でも、男女とも「職場の上司や同僚の理解」が一番多く、次いで、男性では「休暇を取得することに対する理解」、女性は「出産時や子どもの行事等で休める特別休暇」が続いている。

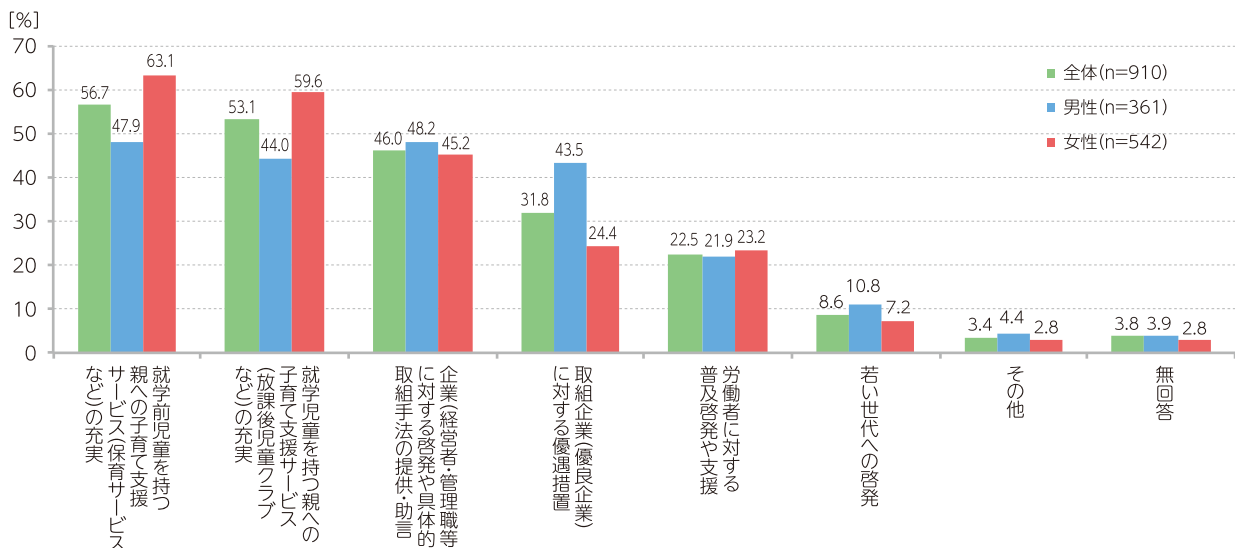


■ ワークライフバランス実現に効果的な行政の支援

－ワークライフバランスを実現するために、行政の支援として何が効果的だと思いますか（3つ以内）－

○行政の支援としては、「就学前児童を持つ親への子育て支援サービスの充実」が全体で 56.7%（男性 47.9%、女性 63.1%）と最も多く、次いで「就学児童を持つ親への子育て支援サービスの充実」が全体で 53.1%（男性 44.0%、女性 59.6%）となっている。（前回調査では、「就学前児童を持つ親への子育て支援サービスの充実」全体 61.5%（男性 51.5%、女性 67.5%）、「企業に対する啓発や優遇措置」全体 57.3%（男性 60.1%、女性 55.9%）の順）

○性別では、女性が「就学前児童を持つ親への子育て支援サービスの充実」が最も多く、女性が男性を大きく上回っている。また、男性では「企業に対する啓発や具体的取組手法の提供・助言」が最も多くなっている。



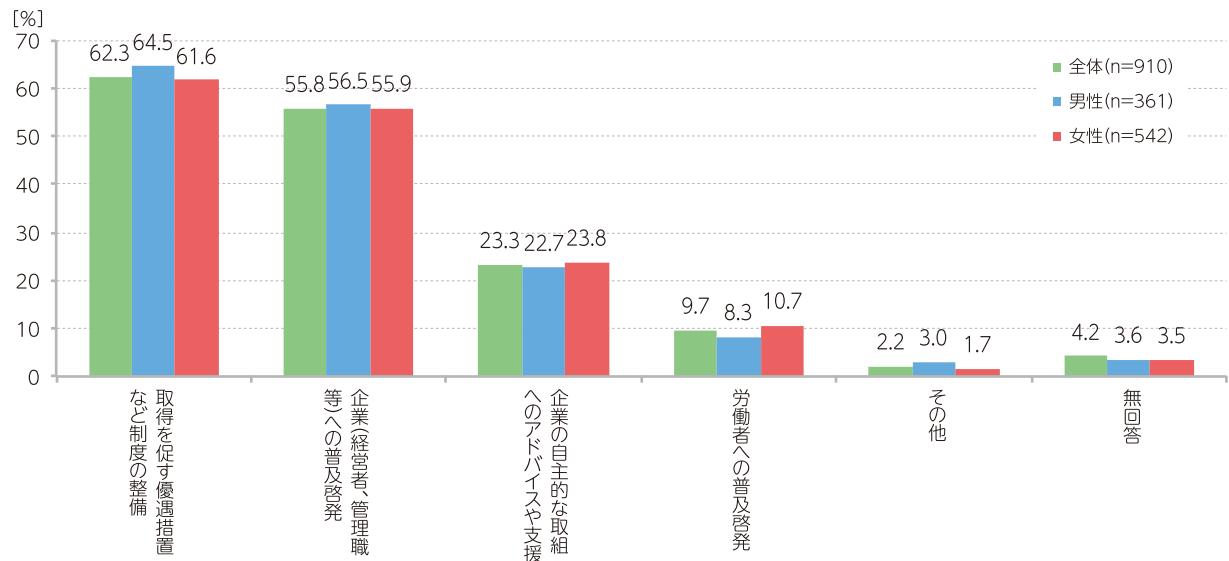
■ 年次有給休暇を取得しやすい環境整備に必要な行政の支援

－年次有給休暇を取得しやすい環境の整備のために

必要な行政の支援は何だと思いますか（2つ以内）－

○「取得を促す優遇措置など制度の整備」が全体で62.3%(男性64.5%、女性61.6%)、次いで「企業（経営者・管理職等）への普及啓発」が全体で55.8%(男性56.5%、女性55.9%)の2項目が突出して多くなっている。

○男女別での大きな差は特に見られない。



■ 男性の育児休業を取得しやすい環境整備に必要な行政の支援

－男性の育児休業を取得しやすい環境の整備のために

必要な行政の支援は何だと思いますか（2つ以内）－

○「取得を促す優遇措置など制度の整備」が全体で57.1%(男性59.6%、女性56.3%)と「企業（経営者・管理職等）への普及啓発」が全体で55.3%(男性53.5%、女性57.0%)の2項目が多くなっている。

○男女別での大きな差は特に見られない。

